

主な日常生活動作へのアドバイスと便利なグッズの提案

- ・食事や着替え、排泄、入浴、洗面などの日常生活動作や学習時の手や体の使い方や姿勢、その他の問題へのアドバイス
- ・便利なグッズの提案：使いやすいスプーンやフォーク、はし、ペンホルダー、ハサミなど、工夫した椅子や机
- ・そのほかの遊びや学習環境のアドバイス

本の紹介

- ・楽しさからはじめよう
～感覚統合を促す遊びと生活のレシピ
遊びサポートセンター playfulness
- ・「みんなの感覚統合」その理論と実践
佐藤 剛・土田玲子・小野昭男 著
パシフィックサプライ株式会社
- ・感覚統合Q & A
—こどもの理解と援助のために—
佐藤 剛 監修
永井洋一、浜田昌義 著
協同医書出版社

関連団体のリンク先

- ・日本感覚統合学会
<http://www.si-japan.net/>
- ・日本作業療法士学会；
<http://www.jaot.or.jp/info.html>



連絡先； 日本肢体不自由児協会
心身障害児総合医療療育センター

作業療法室 佐々木

ホームページ

<http://www.ryouiku-net.com/>

イラスト

佐々木望美 佐々木清子

乳幼児のための 遊びと生活の支援

—作業療法ってなあに？—

歩けるようになったけど
ちょっと気になるお子さんへの支援



心身障害児総合医療療育センター

どのように援助するのですか

作業療法士は、お子さんの日常の生活動作や遊びを援助します。特に感覚や運動面から分析してお子さんの様子を見ていきます。お子さんに合わせた遊びを提供しながら発達を促し、日常生活で困ったことに対し、関わりかたを助言したり便利な道具を紹介します。

●感覚が過敏だったり感じにくいお子さんに、このような特徴的な行動が見られることがあります。

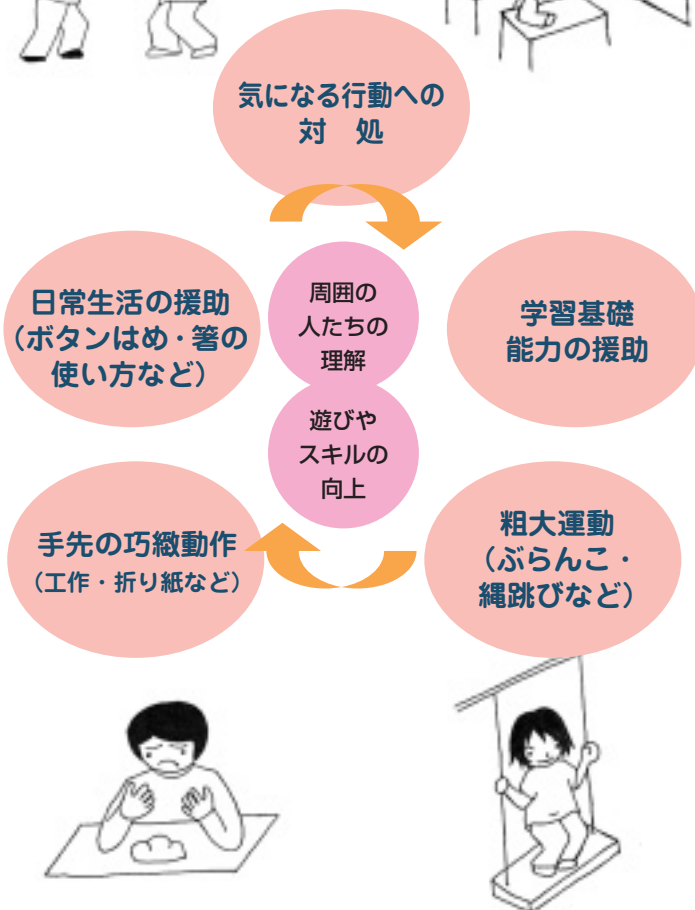
- ・手先の不器用さ
- ・音や味への敏感さ
- ・ブランコなどであそばない
- ・人に触られることや特定の感触への過敏さや求める行動
- ・生活や対人交流の難しさなど

●不器用なお子さんはこんな特徴があります。

- ・姿勢がくずれたりバランスをとりにくい
- ・両手の協調や連続的な動作、動作の真似が苦手
- ・手先の不器用さ
- ・工作が苦手

作業療法士は どんなことをするのですか？

子どもが集中力・積極性・自信を持てるように



基本的な考え方

—感覚統合・発達の視点—

「その子にあった活動」を「楽しく行うこと」や便利な道具を使うことで、子どもは「できた」といった達成感を積むことができ、自信をもち生き生きと過ごせるようになっていきます。

縄跳びのようなより高度な活動ができるまでには、姿勢を保つ能力が必要です。また、読み書きなど学習の基礎的な能力は、空間を把握できる能力や目と手の協調的な動作を行える能力が必要です。それらの能力は、子どもがいろいろな環境の中で運動し、探索することで自分の身体のイメージをつくり身につけていく必要があります。

例えば、友達と相撲をしたり、ぶら下がったり、ブランコに乗ったりなど、いろいろな遊びがそれらの能力の土台を作っていきます。

作業療法士は土台となる機能を指導することで、子どもは無理なく楽しんで遊び、学習することができます。

乳児期はそれらの土台をつくる重要な時期だと考えています。

支援の流れ

医師による診察

医師による作業療法への依頼

評価

・便利な道具
・環境の工夫

・関わりかた
・遊び
・日常生活動作などの支援

必要に応じて幼稚園や保育園、通園施設の教師や保育士と連絡をとって進めます。